長門市立深川小学校　校長室・コミスクだより

本気・根気・元気

令和4年5月19日(木)

深川小学校は　コミュニティ・スクールです！

本校の玄関にある、こののぼりを御覧になったことがありますか？これは「地域協育力日本一推進事業」の啓発のために、県教育庁地域連携教育推進課から届いたものです。

コミュニティ・スクールとは、「学校運営協議会」を設置している学校のことを指します。

本校でも、「地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくり」をめざして、学校運営協議会を開催し、学校運営の基本方針の承認や学校の課題解決に向けた協議を行っています。また、３つのプロジェクト部会に分かれて、より具体的な取組について協議し実践しています。

子どもや学校・地域の抱える課題の解決・未来を担う子どもたちの豊かな成長のために、地域総がかりで子どもを守り、育てていきましょう。

山口県教育委員会

山口県の「地域連携教育」リーフレット

【問い合わせ先】地域連携教育推進室（TEL：083-933-4661）

山口県教育委員会ホームページより抜粋

この漫画の続きが気になる方は、こちらから御覧ください。→

されどあいさつ

この１か月、いろいろな地域の会合等で、このようなお話をさせていただいています。

長門に来て、子ども達がよくあいさつをすることに感心しています。小中学生はともかく、特に驚くのは、**高校生**が見ず知らずの私に、自分から進んで「おはようございます」の声をかけてくれることです。これは、今まで赴任したどの地域においても経験したことのないことです。

※この話に続けて、深川中の白澤校長先生が「高校生がよくあいさつをするのは、おそらく私の前の校長先生（宇野中央公民館長さん）のご指導がよかったからでしょう。」と笑いを誘うのが定番の流れとなりました。

先日、香月泰男美術館の松浦館長さん（前長門市教育長）が来校された際に、この感想をお伝えしたところ、松浦館長さんも「私も同じことを思っている。数年前まではそうでもなかったが、**この何年間か特に良くなった。**」とおっしゃっていました。

もし、そうであるならば、これも みすゞ学園が、小中同一歩調で地域の方々と共に取り組んできたことの一つの成果かもしれません。**子ども達の 18 歳以降の姿**を見据えたキャリア教育を考える上でも、あいさつはとても大事な要素の一つです。

深川小学校では、今年度も三つのチャレンジ目標の一つとして**「笑・自・気」あいさつ**に取り組んでいます。これは、

笑顔で　自分から　気持ちのよい　あいさつをしよう

というものです。

先日も、校門で運営委員会の子どもたちが「こんなにたくさんの人があいさつしてくれました！」とうれしそうにカウンター（数取器）の数字を見せてくれました。

元気で明るいあいさつは気持ちのよいものですが、必ずしも誰もが大きな声であいさつができるとは限りません。できる子にとっては当たり前のことでも、声を出すことが得意でない子には想像以上の困難さがあります。

私は、あいさつでは、「相手と**目を合わせる**」ことを大切にしたいと考えています。アイ・コンタクトという言葉がありますが、目が合えば、仮に無言の会釈であっても気持ちは伝わります。

４月最初の始業式で、全校児童に「**あいさつがよくできる子は、必ず賢い子**になります。」という話をしました。人と目を合わせることのできる子は、人の話をしっかり聴いています。人の話が聴ける子は賢くなります。（もちろん、賢いというのは、テストでよい点が取れるというだけではありません。）

深川小のたくさんの子が「相手と**目を合わせる**」ことができるようになると、もっともっと素晴らしい学校・地域になるに違いない、そう思っています。あいさつというのは、その人の心の内が結果として外に表れるものです。ですから、「あいさつをしましょう」と結果だけを求めても本質はなかなか変わりません。

では、どうしたらそれができるようになるのでしょう・・・案外難しいことです。その答えの一つは、私たち親や教師がしっかり子どもの目を見て話を聴くことではないでしょうか。たかがあいさつですが、とても奥が深いです。

「校長室・コミスクだより」は、深川小校長と事務室の加藤主事で作成していきます。今回は、表面を加藤、裏面を校長の矢野が担当しました。できるだけ読みやすい紙面を心がけて参りますので、どうぞよろしくお願いします。